地域と校長

今はもう閉校となってしまった中学校に勤務していた時の話です。漁港に面した県道沿いに，簡素な間垣（まがき）風景に調和したようなしないようなカラフルなベンチが１０脚あまり連なっています。このベンチ，さては観光客の休憩用かと思いきや，何と朝な夕な，日に焼け，筋骨たくましい男たちのたまり場となるのです。赴任当初私はこの光景に違和感を覚えました。なぜなら，昔から井戸端会議の主人公は女性と相場は決まっているのです。

ある夏，漁協組合員のご好意で伝馬船（てんません）（小型和船）を借用して一人で港からアジ釣りに出港する機会を得ました。ベンチの住人は見慣れぬよそ者の出港をいぶかしげに眺めていました。しかし，休業日ごとにまじめに出港を重ねるうち，このベンチから声をかけられるようになりました。

「校長！ここのアジ全部釣ってしまわんとかにゃあ」，「サザエ網の近くや釣れるぞ」，「今アカイカや寄っとるぞ」等々。漁師特有の荒っぽさで励ましのお言葉や釣り情報を怒鳴りつけます。初めは怒られているような感覚だったものが，いつしかいっしょにベンチに腰かけて同じ大声で漁師と怒鳴り合っている自分がありました。

船下ろしの斜路を一人で船を押していると誰かがどこからともなく近寄ってきて手伝ってくれます。また，せっかく出港したのに急に風が出てきて急いで引き返したこともあります。そんな時，ベンチの住人は決まって素人の海の無知をとがめます。ありがたいことです。（できれば出港する前に教えてほしいのですが…）

２０年ほど前に船釣りに興味を覚え，小型船舶免許を取得し，めでたく船長とはなりましたが，船を購入する経済的余裕がないことと係船場所が確保できないという理由で夢をあきらめていました。そんな折り，地域の方のご好意で伝馬船の使用許可をいただきました。これを“渡りに船”と言うのでしょうか。ともあれいくつになっても新しい世界に足を踏み入れる時は多少の緊張と心にときめくものを感じるものです。たった数回の単独出漁でしたが，学校勤務のみでは絶対得られない体験と地域の男の世界にも混ぜていただいたことに今でも感謝しています。